

多摩市立図書館本館再構築基本構想策定委員会の経緯と構成

□ 基本構想策定委員会に併行するヒアリングや部会協議（委員会報告資料）

■ 図書館員(専門職集団)との意見交換・課題研究/策定委員会に職員研究会からの意見。

- △7/7. 第1回（話題提供：計画同人）・現状を図書館員が俯瞰議論する。・市民要望を館員から読み解く。
→ 「地域館/拠点館/新本館の今後」について、図書館員ひとりひとりの考えを策定委員会に届ける。
- △8/4. 第2回（講師に松本策定委員）・図書館協議会での議論と意見。・新図書館へ体制の脱皮に。
→ 「新中央館とは、他市の比較、あり方」について、図書館員としての課題の例示/ワークショップ。
- △9/24. 第3回（講師に常世田策定委員）・多摩市の図書館員有志の集まり・どんな日々の努力が大切か。
→ 図書館員としてどう学び直し、どう変わるか、図書館員としての課題への向き合い方
- △9/24. → H23「基本方針・運営方針」とH28「読書活動振興計画」を「本館再整備基本構想の基盤」として策定委員会は議論する。

■ 図書館協議会/教育委員会など（連携/政策集団）との 情報提示・意見交換 など

- △7/21. 子どもの読書活動推進計画市民連絡会ヒアリング：地域の文庫活動や地域館での活動から図書館を考える。
- △8/01. 企画政策/総務/教育部門と協議：行動プログラムの更新、財政展望・図書館人事・図書館施策の将来像。
- △8/25. 図書館協議会ヒアリング：二度の図書館政策の総括的提言、読書活動推進計画と市民反響後の追加的研究。
- △9/24. → H22図書館協議会「中央図書館整備のあり方答申」を「本館再整備基本構想の骨格」として策定委員会は議論する。

■ 学校図書館員/行政資料室など（連携/類縁集団）との 情報提示・意見交換 など

- △7/21. 学校図書館司書ヒアリング：学校図書館支援、教育支援、支援連携の展開←生徒一人利用密度と資料費、統計
- △7/21. 行政資料室ヒアリング：行政施策との連携（行政支援/行政文書受け入れ/チラシポスター/地域資料構築）
- △9/23. 学校図書館全体司書会ヒアリング：学校図書館の展望、中央図書館に望むこと、支援と連携について

■ 逐次：中央館開設や今後のサービス方針に関わる状況のヒアリング

- △ 図書館企画運営係報告：ボランティアの形、グループ状況、文庫連絡会との連携、障害者支援、
- ▽ 基本計画段階での確認：青少年支援、幼稚園保育園、包括支援センター連携、病院支援、福祉作業所、ボランティアコーディネートの展開/ブックスタート/共同参画/本のリサイクル/公民館図書室の展望/ほか、
- △ 図書館協議会や大妻女子大松本先生：広域利用や都市連携、大学図書館連携、公共図書館連絡会、
- △11/1. 経済観光課商工担当と協議：図書館のビジネス支援へのニーズ、多摩市の現在の創業支援施策と今後の展望

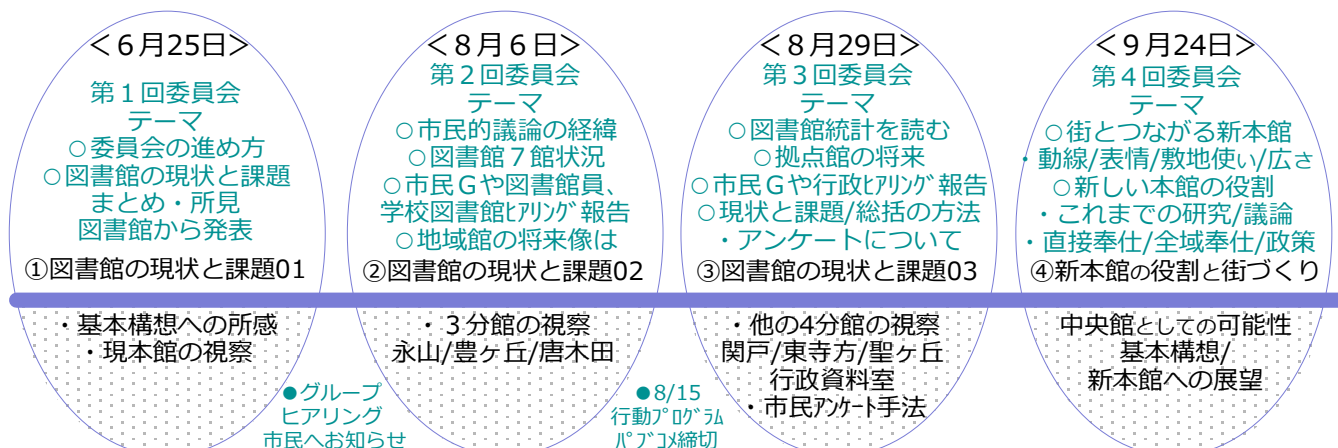
■ ご希望市民グループ/図書館研究市民グループなどとの 情報提示・意見交換 など

- △7/21. 多摩市に中央図書館をつくる会ヒアリング：中央図書館はなぜ必要か/図書館友の会への展望/今後の市民活動の連帯
- △8/09. 地域図書館の存続を考える会（4団体）ヒアリング △8/25. 多摩市の社会教育を考える会ヒアリング
→ 9/24. 「公共施設の見直し方針と行動プログラム更新案に対する私たちの意見(パブリックコメント)」を策定委員会に提出。
- △8/25. 多摩おはなしの会ヒアリング、 ○おはなしシュッポポの9月定例会からご意見が届く、
- △9/24. → 「市政世論調査や各種アンケート」「行動施設の見直し方針と行動プログラム更新案へのパブリックコメント」「グループヒアリング」「説明会意見」など、これまでの図書館への市民意見をふまえ、原案素案への意見も積み重ねて、基本構想素案を策定委員会は議論する。

■ 市議会子ども教育常任委員会勉強会での情報提示・意見交換

- △11/10. ・基本構想策定委員会の進捗を館長が説明。検討資料の提出。各議員から質疑とご意見を伺う。

□ 基本構想策定委員会の構成と進め方



□ 基本構想策定委員会 委員構成

・任期：平成28年6月25日委嘱～平成29年3月31日

氏名	備考
ヤナギダ クニオ 柳田 邦男 (委員長)	学識経験者
トコヨダ リョウ 常世田 良	学識経験者
スズキ ミツル 鈴木 充	教育委員会委員
マツモト ナオキ 松本 直樹 (副委員長)	図書館協議会委員
テラサワ ヒトシ 寺沢 史	学びあい育ちあい 推進審議会委員
オナカ ノブオ 尾中 信夫	都市計画審議会委員
チバ マサノリ 千葉 正法	多摩市立小中学校長
ツジヤマ タエコ 辻山 妙子	多摩市民 (子どもの読書活動 推進計画市民連絡会)
アオキ ヨウコ 青木 洋子	多摩市民 (多摩市に中央図 書館をつくる会)
オオサワ タクミ 大澤 拓未	多摩市民 (成人式実行委員 から推薦)

□ 基本構想策定委員会の開催

- ・第1回策定委員会 平成28年 6月25日
- ・第2回策定委員会 平成28年 8月 6日
- ・第3回策定委員会 平成28年 8月29日
- ・第4回策定委員会 平成28年 9月24日
- ・第5回策定委員会 平成28年10月29日
- ・第6回策定委員会 平成28年11月20日
- 市民フォーラム 平成28年12月 3日
- パブリックコメント募集 12月3日～17日
(15日間)
- ・第7回策定委員会 平成29年 1月 7日

□ 基本構想 担当部局

多摩市教育委員会

教育長 清水哲也.
教育部長 福田美香.

□ 基本構想 事務局

多摩市立図書館

図書館長 中島 幸.

再構築担当 図書館主査 笹原亮志. 企画運営係 福島直紀.

図書館業務からの協力体制

総務係長 原田 憲. 企画運営係長 阿部玲子.

地域資料係長 藤田 純. 子ども読書支援係長 村野静香.

サービス係長 兼 豊ヶ丘・唐木田図書館長 栗崎佳津美.

東寺方・関戸図書館長 阿部明美.

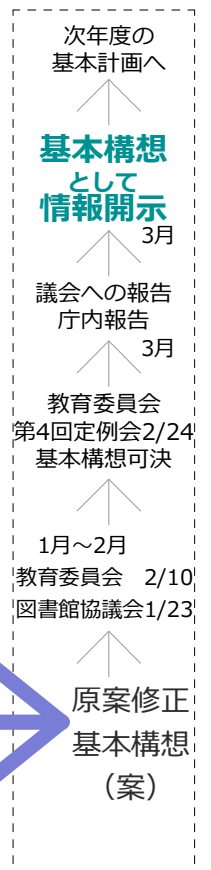
聖ヶ丘・永山図書館長 大田真澄.

支援コンサルタント (株)寺田 大塚 小林 計画同人.
寺田芳朗. 小林春奈. 中野寛之.

□ 市民フォーラムの開催



- 12月3日午後6:30から、永山公民館ベルブホールで「多摩市立図書館本館再構築市民フォーラム」が開かれた。市民等の参加は102人。清水教育長挨拶、柳田邦男構想策定委員長の基調講演、委員会事務局の中島図書館長から基本構想の説明をした。7名の方から質疑と意見があった。多摩市立図書館のあり方をビジョンとして示して、中央図書館の意義と多摩市における必要性を確認し、今後の多摩市の図書館行政の方向性を、参加者と考える会となった。
- 基本構想原案は、市内各図書館、多摩センター駅出張所、関戸公民館、市の公式ホームページで市民に情報公開され、パブリックコメントが募集されたこと、今後の基本構想のまとめへのスケジュールが説明され市民参加を呼びかけた。



<10月29日>

第5回委員会
テーマ

- 新本館サービス
・課題解決型サービス
- 新本館の
キャッチフレーズ
あたらしい概念を

⑤サービスと施設環境への提案

新本館整備の方向性
基本構想/
新本館の将来像

構想素案
骨組み案

<11月20日>

第6回委員会
テーマ

- 蔵書構成を考える
・カーリル調査から
- ⑥本館/全域奉仕の経営
・選択と集中:時間マネジメント
職員再編成・施設管理
- 基本構想原案の確認

知の地域づくり
知の創造センター
図書館の枠を越えた
新しい視点

構想原案
途中原稿

基本構想
原案開示

●市民
意見交換
フォーラム
<12月3日>

<12月3～17日>

●パブリック
コメント募集
(15日間)

素案修正
→開示原案

市民意見
状況報告

<1月7日>

第7回委員会テーマ
<報告>

- 今後の策定委員会
- 市民フォーラム/パブリック概要
<審議>
- 構想案の修正
- パブリックへの見解
- 概要版の作成

上記の方針指示に沿い
15日でもとめ作業
委員郵送確認

おわりに

多摩地区の公立図書館は、永い間我が国の公共図書館活動を牽引する先進的な活動を続けてきました。とくに1970年代から1980年代においては都下の自治体には市民の支持を受け、高いサービス実績を記録する図書館が綺羅星のごとく存在していました。それらの図書館には個性的な名物図書館長のもとに意欲的な司書集団が形成され、お互い競い合ながら市民サービスの向上や図書館の在り方の改善に取り組んでいました。

多摩市においても当時の伊藤峻館長のもと「イトイズム」といえるような、先進的な取り組みを行っていました。たとえば図書館未設置の町が少なくない時代に複数の図書館を設置し、市役所より早く電算の導入を図ったり、また独特の分類法を編み出し、柔軟な資料の管理を行ったり、さらにそれまで図書館において収集されなかった資料を集めたり、職員研修に工夫を凝らすなど、常に図書館改革に取り組んでいました。

これらの取り組みの結果、多摩市における市民の図書館利用は常に全国のトップレベルを維持してきました。

もちろん行政サービスが向上するには担当課の努力だけでは困難です。多摩市においては図書館現場の意欲的な取り組みとそれを支える首長部局との連携、そしてなによりも歴代の市長の政策が功を奏したと思われまます。

一般的な国民が図書館に対してイメージする「娯楽」「教養」のための本を借りる、という点については、図書館先進地域である欧米諸国なみとはいえないまでも、市民がほぼ満足するレベルにあるといえるでしょう。

一方、図書館から本を借りていない市民が約80%、本を借りずに図書館を利用している市民を加えても図書館を使わない市民が60%以上は存在すると思われまます。図書館を使わない理由の多くは「暇がない」ことだといわれています。つまり働き盛りの市民の利用が少ないといえます。しかし世界の未曾有の変化に直面し、不況、介護、子育て、地域問題など未経験の課題に「自己判断自己責任」を迫られている「暇のない」市民にこそ、解決のための知恵が必要とされています。

さいわい多摩市の図書館には高度な情報提供サービスを可能とする専門職集団が存続していますし、市民の身近に複数の図書館が配置されています。いわば名医のいる街角の医院が多数存在しているようなものです。さらに名医をバックアップする大学病院があれば医療態勢は完璧となります。当委員会に付託された役割は、いわば街角の医院とそれをバックアップする大学病院の関係のような、分館、地域図書館と中央図書館のあり方を検討することであったと思います。当基本構想の目的は、新しい中央図書館が従来型のサービスをさらに充実させるとともに高度な情報提供や市民の多様な活動や交流を可能とする空間を提供し、分館、地区図書館をバックアップすることで多摩市の市民の生活を安全、豊かにし、自己実現を後押しすることにあります。

当基本構想において示された方向性は、我が国の図書館では未だ充分には実現されていないものです。実現すれば、公共図書館の「多摩モデル」と呼ばれるものを創る試みであるといえるでしょう。当基本構想が、これから策定される諸計画作成の際に大きな方向性を示すことができると信じております。

会議開催時に市長には複数回お運びいただきました。教育長にも毎回のようにお出でいただきました。通常あり得ないことであり当会議の重要性を改めて認識いたしました。

自治体において開催される各種の審議会では、いわゆる当て職の委員が多く本音の討議が行われないことが少なくないのですが、当委員会では委員長はじめ委員のみなさんの多摩市に対する愛情にあふれた本音の討議が毎回展開されました。

しかしそのために委員長はじめ多くの委員からの提案で会議の回数が大幅に増加し、しかも会議が休日の夜半まで及ぶこともあり、事務局等の関係者には大変なご苦勞をお掛けしました。委員会を代表して関係者のみなさまに心から御礼を申し上げます。

多摩市立図書館本館再構築基本構想策定委員会委員
常世田 良

多摩市立図書館本館再構築基本構想

発行年月 平成29年3月発行

編集・発行 多摩市教育委員会

教育部 図書館

多摩市落合2-29

電話 042-373-7955

印刷番号 29-51

頒布価格 140円